



高良先生のこと

市川 光洋（光洋クリニック院長、保存会会長）

私が、1年間高良興生院にいたころの事です。昼休みに診察から戻った高良先生が何とも言えない表情をされていた事がありました。「何かあったのですか？」とお聞きすると、午前中に診察された若い女性の患者さんの事を話し出されました。

強迫症状で普通の生活ができず、思い余って高良興生院を尋ねて来られた患者さんでしたが、精神分析療法を受けていて数年間改善しないまま治療を続けていたとの事です。「本人が人生で最も楽しめるはずの時期を、無駄にしてしまった。ここなら数か月で少なくとも普通の生活を送れるようになったのに」と嘆く先生の言葉は、ずっと心に残っています。

このころに高良先生が言われた言葉で、もう1つ心に残っているものがあります。それは「僕の世代で森田療法は完成した。君たちはもっと新しい事をしなさい」です。

私が浜松医大の精神科に帰って森田療法を再開した時に、若い学校の教師が不安発作のために仕事が続けられず受診して来ました。入院して森田療法を行ったところ、発作は無くなって元気に退院して行きました。退院後も順調に勤務していましたが、正月に実家に帰省した時に父親から早く家にもどって家の跡を継ぐように言われ、これを契機に症状が再発してしまいました。本人に跡継ぎの件について尋ねてみると、「自分としては、今の県で教員として勤務し、定年で退職したら実家に帰りたい」とのことでした。

症状が悪化していくので、あらためて本人の周囲で起こっていることを確認して見ました。まず、本人の不安症状が出現して勤務を休むと学校を通して

両親に報告がいきます。すると父親が「病気が悪いのならば、もどって家の跡を継げ」と言い出します。さらに父親は学校長にも会って、実家の近くに本人の転勤を依頼します。その結果、本人は自分の意思と父親の希望とのあいだで葛藤状況に陥り、原因となった不安発作に対してますますとらわれていきます。

また、本人の状態は父親の不安をあおって、本人に代わって事態をコントロールしようとする父親の行動を生み、それが父親に自分の将来をコントロールされることに対する本人の不満を生みます。そして不安症状はさらに頻発して、父親のあせりを生み本人に対するコントロールを強めてしまいます。

このような悪循環が始まってしまったために、本人と両親とを交えて面接を行うことにしました。

1回目の面接では、「現在家の中で問題になっていること」をテーマにしました。すると、予想通り家の跡継ぎ問題が表面に出てきました。そこで2回目は、「跡継ぎ問題」をテーマに話し合う事として、面接を終えました。この面接後に本人は、「自分も少しは意見が言えたが、父がかなり一方的に話した。父は家を存続させたい気持ちが強い。母も家を大切にする」と感想を述べていました。

第2回面接では、家の家系図を作ることを中心に面接が進みました。この中で、本人の祖父が、酒好き、役好きの人で、在郷軍人会の会長時代に、大きな借金を残して早死にしたこと。父親はそれを返すために軍人となり、得たお金を家に送り続けていたこと、などが語られました。また、父方の祖父の代以前の家系については詳しいことが分かりませんでした。そこで次の面接では、再度家全体の家系図について話し合うことを申し合わせました。

第3回の面接では、まず本人にわかる範囲で家の家系図を書いてもらい、足りない部分を父親に付け加えてもらいました。この日までに父親は、村役場に行って戸籍を調べ、さらに、家の墓も調べてこの面接に臨んでいました。そしてそれをもとに皆の目の前で7代前までの家の家系図を完成させました。

この面接の最後に父親は、「親子でこんな話をしたことはなかった。自分は、その頃にはもう生きていないだろうが、本人が定年になったら、家に帰ってきて墓を守ってくれれば良い。それ以上もう付け加えることはありません」とつきものが落ちたように言いました。また本人は、「最初は家系話を聞いてもしかなかったが、今は先祖の様子もわかってみると、ある程度長く続いた家を自分で絶やすのは問題があるかなと思っている」と述べまし

神経質を生かす

南條 幸弘 (川口会病院、前・三島森田病院)

私は大原健士郎浜松医科大学教授に師事しておりましたので、高良武久先生の孫弟子ということになりましょうか。高良先生は森田療法学会の際にフロアから壇上の御姿を拝見したのと御著書を拝読しただけです。私のような者が原稿を書かせていただく荣誉にあずかっていいのかとも思いますが、御指名により、書かせていただきます。

私自身、神経質であり、小学生の時から対人恐怖や強迫観念に悩んでいました。授業中に先生から当てられると緊張して頭が真っ白になって何を言っているのかわからなくなりました。中学生の頃は図書館で自律訓練法や催眠術の本を読み漁って、何とかしようとしたものです。大胆になろうとして無理に突っ張って響感を買ったこともあります。高校卒業の時の寄せ書きには同級生の女子から「あなたほど女子の前で照れる人はいない」と書かれたものです。それでも、緊張しながら情けない思いをしながらも仕方なしに事に当たってきました。東京での大学生活の後半は中落合の下宿で過ごしながら、高良興生院を知る機会はありませんでした。大学4年の時に父親が難しい病気にかかり、Uターン就職します。

た。

この3回の面接が終了した後に、再度本人に不安発作が出現したときには、高校から連絡がいても父親は「本人の問題ですから」と動かなくなりました。そして本人も何とか独力で発作のあった1か月間を乗り切りました。

このように家族が家系図をめぐって話し合うことで、その家に本来のコミュニケーションが回復し本人の不安神経症も回復したのです。

今から思うと、高良興生院で見た、若い時の時間を空費する事に対する高良先生の気持ちと、君たちは新しい治療をするようにとの教えとが、浜松に帰ってからこの時の面接に繋がったのだと思います。

当時インターネットはなく、医学的な情報を得るには大きな図書館で調べるしかなく、口惜しい思いをしました。医学の道への思いが強くなり、社会人4年目の時に、浜松医大を受験し、幸運なことに入学できました。静岡の自宅から徒歩と在来線とバス利用で片道2時間半の通学でした。医大オーケストラに入り、アルバイトもしていましたから授業中は睡魔との闘いでした。入学直後に亡くなった父が背中を押してくれているように思いました。医学部は普段から試験が厳しく留年する生徒が多く、対人恐怖にとっては鬼門の口頭試問もあります。それでも何とか留年せずに卒業し、一回で国家試験も合格できたのは、心配性ゆえいろいろ準備する神経質のおかげに他なりません。

大原教授の精神科に入局し、研修期間を終えて1年余り三島森田病院に派遣されてから、森田療法担当の大学助手になりました。私が助手になるにあたり、大原教授から言われたのはたった一言「お前が患者のお手本になるようにしていくなだよ」。しかし、これは際限なく厳しいお言葉だったと思います。

大原教授が退官された後、三島森田病院で精神科

全般の患者さんの診療に当たりながら、これらと思う人には入院森田療法を行ってきました。しかし、治療として行える森田療法には限界があります。神経症の症状に苦しむ人ばかりでなく、人知れず神経質性格に悩んでいる人は少なくないはず。そうした人々のお役に立てればと考えて、まだブログの黎明期の平成 17 年（2005 年）から準備を始めて翌年からブログ「神経質礼賛」の公開を始めました。強迫的な人間なので、毎月 10 話アップし続けました。「神経質は重い車」の喩えのように、なかなか手が出ないけれども一度始めると簡単には止まらないのが神経質です。5 年以上続いたところで思い切って白揚社さんに相談して『神経質礼賛』の出版に踏み切りました。無名の間が書いたものだから売れるはずもなく、自宅には段ボールの山が積まれたままとなり、妻からはさんざんに言われました。それでも、この本が静岡県文化財団に評価されて、徳川家康没後四百年記念本の原稿依頼の話が舞い込みます。徳川家康を神経質性格の偉人として書いていたからです。平成 27 年発行のしずおか文化新書『家康その一言』を読んだ BS-TBS の「にっぽん！歴史鑑定」という番組のプロデューサーから TV 出演の話をいただき、平成 30 年放送の「家康と信康 父子の争い」

南條幸弘先生のブログ、ご著書の紹介

中浴 佳男（保存会スタッフ）

今号に一文をお寄せいただいた南條幸弘先生は本文中にもありますように 2 冊のご著書を出版され、現在もブログの運用をされています。それらを紹介させていただきます。

という番組に少し出させていただきました。令和 2 年に長年勤めた三島森田病院を退職し、掛川市にある川口会病院で仕事をしている現在もブログは細々と続いています。小さなことであっても長く粘っていればそれなりのことはあるのだと思います。

昨年秋、出光美術館の「仙厓のすべて」という展覧会を見に行きました。出光の創業者・出光佐三はその大胆な行動から海賊とあだ名されていますが、若い頃は神経質に悩んでいたと回想録に書いています。仙厓の禅画「堪忍柳画賛」を全国の支店に自分の写真の代わりに掲げさせたといひます。「気に入らぬ風もあろうに柳かな」という句が書かれ、形外会の森田先生の話にも出てきます。この展覧会には仙厓が 88 歳で亡くなる直前に描かれた牡丹画賛が展示されました。牡丹の花の画に「うへて見よ 花のそたゝぬ里もなし 心ろからこそ 身は畢（つく）しけれ」という文が添えられています。神経質人間は、いいアイデアが浮かんでも「どうせダメだろう」と考えてなかなか行動に移しません。仙厓は「とにかくやってみよう。工夫と努力次第で何とかなるよ」と背中を押しているのです。神経質を生かすには、ビクビクしながらも思い切って一歩前に出てみるのが大切だと思っております。

までずっと週 2 回以上の更新ペースをくずしてないことです。2023 年 1 月末日時点で記事数は 2070 回分までになっています。先生は神経質者を自認してらっしゃいますが、まさに神経質者の粘り強さを体現してらっしゃいますね。

1 ブログ「神経質礼賛」 四分休符著 2005.2-

<http://shinkeishitsu.cocolog-suruga.com/blog/>

四分休符は南條先生のペンネームです。「神経質」をキーワードにいろんな切り口の話が描かれています。1 記事当たり 1000 文字程度で、気軽に読める分量です。これらは今も第 1 回からすべてインターネット上で読むことができます。

そして、このブログのすごいところは今日に至る

2 図書「神経質礼賛」 南條幸弘著 白揚社 2011.8

ブログ開設から 5 年たった段階で、発売された単行本です。ブログの記事をカテゴリー別に整理しておしてまとめたものと思われます。

目次は、第 1 章・神経質の診察室／第 2 章・森田正馬と森田療法／第 3 章・森田の言葉を読む／第 4



きに代えて・私の神経質人生、
となっています。

この本が出版されてから
10年以上が過ぎましたが、ブ
ログは今も続いております。
続編の刊行が待たれるとこ
ろです。

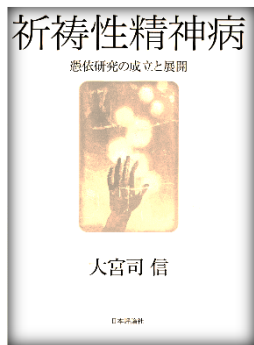
3 図書「家康その一言」 南條幸弘, 鈴木一記著 静岡県文化財団 2015.5 (しずおかの文化新書19)

先生が今年の NHK 大河ドラマの主人公・徳川家
康をとりあげられたのは図書「神経質礼賛」中の「神
経質傑物伝」の中の一節です。本書はこの徳川家康に
焦点をあて、彼の事績を細かく分析し、家康は神経質
者であったと結論づけています。

先生は幼少の頃からの艱難辛苦を乗り越え、慎重
に時代の流れをよみ、最終的に天下をとった家康の
姿に神経質者の粘り強さを見たのでしょうか。

新刊『^{きとう}祈祷性精神病』の紹介

藤田 嘉信 (保存会スタッフ)



著者の大宮司先生は、神奈川
県生まれで、現在、北海道大学
名誉教授。北翔大学教育文化学
部教授です。昨年、大宮司先生
から保存会あてに森田正馬日
記の CD-ROM の貸出しの要請
があったのがご縁である。

に関心をもち研究領域に参加した。

その一人に森田正馬がいる。(本名は「まさたけ」
だが、周囲が、そして本人も了承している「しょうま」
という呼び名が定着している) 彼は日本独自で現在
もなお広く使われている森田療法という精神療法で
よく知られているが、その若き日に自身の出身地の
土佐(現高知県)の犬神憑き調査を行ない、それを出
発点とし、後に「祈祷性精神病」という精神の病気の
概念を提唱した。憑きもの・憑依の現象・消失から、

以下に原著の「はじめに」から引用してみよう。

人間に何かが乗り移り、様々な行動を引き起こす
「憑きもの現象」(憑依)は、かつては日本全国各地
で見られていた。一方で憑きものは周囲に畏怖を
生じさせ、憑きもの落としを生業とする行者・祈祷
師の対象ともされてきた。

この祈祷性精神病という病名も現在ほとんど聞か
れなくなっている。しかし、本書の後半で述べるよう
に、森田の時代とは異なった形で精神科臨床との関
連が続いている。

生活に溶け込んだ民族的な現象のみでなく、たと
えば宗教がらみの憑きもの、占い(「こっくりさん」
が挙げられよう)、能や文学作品の中にも現れてい
るところから、憑依は日本人の心性に広がりをもった
現象と筆者は考えている。

この森田の祈祷性精神病の概念の成り立ちとその
後の展開をみていくことを通して、精神医学からみ
た憑依を本書では考えようとする。第一部では森田
の研究を中心に、祈祷性精神病の概念の成り立ち
を、森田の実地調査と催眠研究を中心にみていく。
第二部では森田後の祈祷性精神病の進展、そして筆
者自身の研究もふくむ、憑依研究のさらなる広がり
についてご紹介する。(日本評論社2022年12月発行)

この現象は民俗学・歴史学・宗教学などの領域で
対象とされ、豊かな研究成果を生み出してきた。明
治期以降に西欧から伝えられた精神医学も憑きもの

■編集／発行 高良興生院・森田療法関連資料保存会

◇連絡先 〒161-0032 東京都新宿区中落合1-6-21 就労センター「街」内

☎03-3952-9975 ただし、火、水、木、金、土曜日の10時から16時まで。

◇電子メール info@honzonkai.net ◇ホームページ <http://www.honzonkai.net/>